



PALE ONE



Vol.028

2026年9月1日発行

OMIYA LIBRARY



-PALE ONE-

〒330-0845
さいたま市大宮区仲町3-52

営業日：火曜日～日曜日
(祝日の月曜日は営業)
営業時間：11時～19時半



店内には、日本では珍しい色や種類の毛糸がたくさん！ それぞれに見本のシュシュやポーチが置いてあり、編んだ時の雰囲気や手触りが確認できます。
毛糸の他にも、生地や資材などが販売されています。



右から 金城愛琳さん、田岸佑理さん、成澤香菜さん

今回のご近所さんは、大宮区仲町にある手芸店PALE ONE(ペールワン)です。
オンラインショップでの販売から着々とファンを増やし続け、2026年3月には実店舗をオープン。こだわりの詰まった僕くも暖かい世界の観の店内では、毛糸を中心に淡く優しい色味の商品も多く扱っています。出張や旅行のついでに遠方から訪れる方も多くいそうで、その年齢層も幅広く、小学生のお客様もいらつしやとのこと。

オーナーの田岸佑理さん、プレスの金城愛琳さん、店長の成澤香菜さんにお話をお伺いしました。

PALE ONEという店名の由来や、店の特徴について教えてください。

PALE ONEは「淡く、優しい雰囲気、世界にひとつだけのデザインに出会えますように」という想いから立ち上げました。店名の「PALE」には淡くやさしい世界観、「ONE」には「世界にひとつだけ」と「初めて」という意味が込められています。そのため、初めて編み物に挑戦する方でも手に取りやすく、自分だけのお気に入りを見つけていただけるようなショップを目指しています。

2024年の11月から始めたオンラインショップでの販売や全国でのポップアップ(期間限定の店舗やイベント)を続ける中で、「実際に商品を見て選びたい、手に取ってみたい」というお客様のお声を多くいただき、いつでも足を運んでいただけるようにと、2026年大宮駅から徒歩7分の場所に実店舗をオープンしました。出店場所は都内も候補にありましたが、大宮には手芸店が少ないことや、以前に住んでいた馴染みのある街だったことから、この場所を選びました。

店舗づくりでは、スケルトン物件(柱や梁などの最低限の骨組みしかなく、内装の自由度が高い物件)にしたので、内装やディスプレイも一から手掛け、PALE ONEらしい淡く優しい世界観を表現できる空間づくりにこだわりました。

-毛糸の紹介-



soft cotton

初心者の方へ一番編んでいただきたい毛糸です。編みやすさと完成後のもちもち感がポイント。



sango

ラメ感やハリ感が夏にぴったりの毛糸です。昨年に引き続き、今年も夏に一番人気の毛糸となっています。新色も追加されます。



mist cotton

夏の新作の毛糸です。さりげないラメ感とさらっとした質感が夏らしく、人気の毛糸となっております。



上記以外にも光沢のあるshell(写真左)、ラメが入ったstarry(写真右)等、日本では珍しい種類の毛糸が並んでいます。

PALE ONEさんでは、現代の編み物ブームの中心である韓国の毛糸も取り扱っているそうですが、おすすめの商品や毛糸について教えてください。

毛糸は、韓国で私たちが実物を確認して販売している物と、メーカーさんに相談をしてオリジナルで作っている物があります。日本の毛糸は原色に近いものが多いように感じているので、淡い色味の珍しいものを選ぶことが多いです。ポップアップ限定の毛糸を出すこともあり、その土地や季節によっても人気の商品は少し違いがあるかもしれません。

毛糸以外にも生地やボタンなどのパーツ、韓国で販売している商品の販売や、完成作品、オリジナルのタグも販売しています。特にオリジナルキャラクターの「ペールワン」のタグが人気です。

愛らしいシルエットのペールワン。タグの他にもミニの立体型ONEちゃんも販売されています。



初心者の方が作るのにおすすめの作品はなんですか？また、季節ごとのおすすめはありますか？

バッグなど大きめの物より、コースターやシュシュ、小さな巾着などの小物がおすすすめです。完成までの時間も比較的短く、達成感を味わいやすいため、編み物の楽しさを感じていただきたいと思います。

若い方は動画を観ながら編む方も多くいます。編み図も小さいものから始めたほうが理解しやすいかなと思います。この店舗で販売している編み図は、初心者の方でも見やすいように文章で編み図の説明を載せています。

秋はモチーフバッグやナッツザックも人気ですが、秋冬はマフラーやウエアを編む方が多いです。マフラーは二カ月くらいかかるの見込んで、九月頃に始めるのが良いかもしれません。

開催しているイベントや、これから挑戦したいことはありますか？

6月からかぎ針・棒針の初心者向けの編み物教室と持ち込みOKの編み会をスタートし、先日第一回を開催しました。初心者の方から経験者の方までご参加いただき、編み物を通じて交流を楽しんでいただけた場となりました。今後も開催を続けていく予定です。

また、年に数回ポップアップイベントも開催しており、これまでに東京・大阪・福岡・北海道・愛知などで実施してきました。各地のお客様と直接お会いできることは私たちにとても大きな楽しみであり、今後ますますさまざまな地域で開催していきたいと考えています。

さらに、お客様により幅広い選択肢の中から商品をお選びいただけるよう、受注販売もスタートしました。

今後は販売だけでなく、編み物を通じた交流や地域貢献にも力を入れていきたいと考えています。現在小児科といった病院での開催などを検討しており、院内でもご家族の方や、お子さまと一緒に編み物を楽しめる機会をつくるなど、編み物を通して人とのつながりを広げていけるような活動にも挑戦していきたいです。

おすすめ本を教えてください

『また、同じ夢をみていた』

住野よる / 著
2016年 双葉社

『二次元の挿し木』

松下龍之介 / 著
宝島社文庫
2025年 宝島社

お客様におすすめしたい本です。読んでいただきたいことがきっかけで出会った、思い出のある一冊です。

ドラマ化をきっかけに手に取りました。予想外の結末がとても印象に残り、心に残る作品でした。



オモシロ雑誌



小学生の頃のある年、北海道のバスツアーに参加したことがある。札幌観光を終えて町はずれに向かう途中、添乗員から「もしヒグマに会っても、大声を出さないでください。背を向けずにゆっくりと後ずさりしましょう」というアナウンスがあった。ビックリした私は隣に座っていた祖母に「クマが出るの?」と聞いたが、祖母は笑顔で「もしもの話よ」と返した。他の乗客たちも恐いとも思っていなさそうであった。それを見てなんだかほっとしたのを覚えている。

が、年月が経って日本各地でクマが目撃されるようになり、ちょっとした地方に行こうとすれば、「クマは大丈夫かしら?」と誰しも一度は考えてしまう状況になっているのではないだろうか。そんなこともあって、大宮図書館で所蔵している雑誌『狩猟生活』を手にとってみた。

題名からして、猟のコツなどが載っているのだろうなとは思っていたが、話題はそれだけでなくジビエの話なども盛りだくさんで、想像以上に幅広い層が楽しめる雑誌でもある。埼玉県のお隣、千葉県であちこちを荒らしているキョンを使ったジビエ料理はなんとも美味しそう!

なにより驚いたのは、ハンターたちの経歴の多様さだ。美食を追い求めるシェフから、学校の先生、さらには動物園のスタッフという人まで。しかし、皆に共通しているのはいただいた「命」は無駄にしないという姿勢だ。その精神は狩り本番だけでなく、獲物を捕ったあとの解体作業にも息づいている。なんでもお店で買える現代。それだけに、「命をいただく」という光景は縁が遠いものになってしまっている。心なしか、この雑誌を読んでからスーパーで手に取る「オニク」に対する姿勢も少し変わったような気がした。

ニュースで見るだけではわからない、猟師たちの訓練風景や狩りの様子などがわかる『狩猟生活』。皆さんもぜひ一度ご覧になってはいかが?

ちなみに、ガガンボを見ただけで「きゃー!」と叫ぶ私には狩猟免許は絶対に無理だけど、お店でジビエを食べてみるところからハンターの方々に貢献していこうと思う。

紹介した雑誌
『狩猟生活』
山と溪谷社



大宮図書館
ホームページ



大宮図書館
X



Xではイベントやスタディコーナーの待ち人数など大宮図書館の情報を日々お伝えしています。ぜひ、フォローしてみてくださいね!

この刊行物の書影画像は出版社からの提供、TRCMARC、BOOKデータASPから引用しています。

私を楽しませるのは私。

小学生の頃、「口裂け女」という都市伝説が流行って私は本気で怯えていました。でも、それ以上に私をビビらせたのが「チャンスさん」でした。

——チャンスさんは顔が見えないくらい髪がボサボサで、前かがみスリッドで走ってくるらしい。通り過ぎて振り返ると後ろはツルハゲ頭で掴めない。だからチャンスさんに会ったらパッと手を伸ばして前髪を掴み込んで——

幸運の掴み方の話なのに、当時の私には恐怖でした(ビジュアルも行動も怖いでしょ!)。なので、下校時は「口裂け女」と「チャンスさん」と「痴漢」の3つに気をつけながら帰っていました。

今になって思うと、あらゆる物事は捉え方次第で、幸運の神様にも、妖怪にもなってしまうことに気づきます。物事は捉え方次第……つまり、「私を楽しませるのは私」。青山美智子さんの小説『ただいま神様当番』に出てくるフレーズです。心にすとんと落ちました。

この小説は、いつも同じバス停を使っている5人が、ある日突然お茶目な神様から「お当番さん」に任命されるというストーリーです。世代も様々な5人は、それぞれモヤモヤを抱えながら日々を過ごしていましたが、ある日突然腕に「神様当番」という文字が浮かび上がり、知らないおじいさんが家にやってきます。おじいさんは自らを「神様」と名乗り、自分の願い事を叶えてほしい! とお願いします。困惑しながらも神様と一緒に過ごしているうち、5人は自分にとっての大切なもの、本当にやりたいことに気づいていきます。心と頭が解れ、すっと軽くなってくる作品です。

私たちは退屈な日常に素敵なハプニングが降ってくるのを待ってしまいがちですが、楽しいことは順番を待っていても回ってきません。何かを始める時も、「才能があるか」「お金になるか」と理由をあげて足を止めてしまうのではなく、待つ側から掴み取る側へ足を踏み出してみるともっと楽しくなるかもしれません。

そして、「なんかおもしろそう」「ワクワクする」そんな自分の小さな感情を大事にして突き詰めていくと、やがて「自分が本当にやってみたかったこと」へ行きつくのかもしれません。

自分の「楽しい!」気持ちに耳を傾けてみませんか?

『ただいま神様当番』

青山美智子 / 著
2022年 宝島社文庫 宝島社



読書バトン

第23回 旅



バトンのテーマ『旅』いただきました!

みなさんはどんな旅がお好きでしょうか?

単純な私の旅といえ、年に一、二回の標高差の少ない山旅でちょいっと汗をかくて、下山後に温泉

プラス、美味しいビールとその土地ならではのソ

ミで乾杯! がすぐに思い浮かぶのですが、最近

脚力がトント弱ってきている上に熊情報に気がなり

山旅はちょっと遠慮したい今日この頃。

しかし、どこかへ行きたい! が、遠出をするの

は基本出不精な身としては腰が重いのであります。

そんな時に、装丁のほほんとした雰囲気イラ

ストに惹かれて手に取った、「そーなのよ、小さな

旅でいいんですよ」と頷きながら気軽に読める1冊

をご紹介します。

益田ミリの『心がほどこける小さな旅』です。

益田さんのかわいらしいイラストとともに、題名

の通り春、夏、秋、冬、それぞれの季節に合わせた

心がほどこけていくような小さな旅が集められ、これ

ならすぐに旅に行けるかと思わせてくれます。春

は阪神競馬場で競馬にチャレンジしたり、夏は岐阜

のオールナイト盆踊りに挑戦してみたり……と普段

の日常を離れて「いいかも」と思ったことに飛び込

んでみる益田さんの姿が素敵です!

年齢を重ねても、まだまだ知らないことが盛りだ

くさん、まずは少しでも気になったことはやってみ

よう、行ってみよう! をきっかけに旅の計画を巡

らせる。

そこでチャリと思いつく浮かんできたのが、『馬には乗っ

て見よ人』には添って見よ。物事は実際に経験して

みないとわからないということわざです。お誘いが

あればなるべく「YES!」。しかし、そう都合よ

ければ来ないで、自分の毎日は自分で楽しく

せねばと小さく奮起。

旅に求めるものも色々ですが、日常から少し抜け

出て心を解放したくなった時に、プチッとサクッと

旅に出かけてみましょうか。新たな自分を発見する

かもしれません。

今回のテーマは『日常』でお願いします。

紹介した本

『心がほどこける小さな旅』

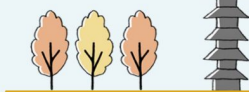
益田ミリ / 著

幻冬舎文庫

2016年 幻冬舎



紹介者 甕井 陽恵



大西民子の一首

秋の穂がそよぐ道の端に立つ少女が、イーゼルを立てて白いホテルを描いている、まるで一枚の絵のような情景を短歌で描いています。民子自身が実際にどこかで見た風景なのでしょうか。それとも自分の中にある架空の情景を詠んだのでしょうか。

穂草そよぐ道のかたへに少女ひとり

画架たてて白きホテルを描く

『まぼろしの椅子』より



2024年

立野井一恵 / 著
エクスナレッジ

『新しい、美しい日本の図書館』

このコーナーでは埼玉県、さいたま市、大宮の歴史と文化、そしてもちろん大宮図書館の事特集した建築雑誌など貴重な資料を揃えております。建築の新しいさと地域の歴史、その両方に出会えます。そして、今回ご紹介した本のページを開いてみてください。見られた図書館も、少し違って見えてくるかもしれません。

本を読むため、調べものをするため、勉強するためという方が多いと思いますが、なかにはこの豊かな時間そのものがお気に入りという方もいらっしゃるのではないのでしょうか。そんな時間の中で「今日はどんな本を読もうかな」と本棚の間を歩いていただけたら、私たちも嬉しくなりそうです。そして「地域資料コーナー」でも足を止めていただけたら。

大きな窓越しに見える四季折々うつろいゆく木々は、一日のなかでも朝陽にきらめいたり、夜には深い緑になったりと様々な表情を見せてくれます。そこにキノコのようなデスクライトの光がやさしく浮かび上がります。その景色を眺めながら過ごす時間はとても豊かな時間です。

図書館を訪れる理由は人それぞれ。本を読むため、調べものをするため、勉強するためという方が多いと思いますが、なかにはこの豊かな時間そのものがお気に入りという方もいらっしゃるのではないのでしょうか。そんな時間の中で「今日はどんな本を読もうかな」と本棚の間を歩いていただけたら、私たちも嬉しくなりそうです。そして「地域資料コーナー」でも足を止めていただけたら。

日本の新しい、美しい図書館を紹介した本に大宮図書館が掲載されていることを存じでしょうか。今回ご紹介する本はその名も『新しい、美しい日本の図書館』です。映画の撮影が行われた有名な図書館、SNSで話題の図書館など、肩を並べて掲載されています。



『さいたまって面白過ぎる!』

